

# 千葉県銚子市（国内 37 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る 疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 19 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

## 1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約 27 万羽）

発生家きん舎の構造：ウィンドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立式 6 段ケージ 6 列、通路 4 本）

## 2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は平野部に位置。農場東側は道路に面しており、周辺は林に囲まれていた。
- ② 当該農場の南西 1.9km 及び北西 2.3 km に国内 31 例目（千葉県 4 例目、1 月 16 日発生）及び国内 32 例目（千葉県 5 例目、1 月 18 日発生）農場が位置していた。また、当該農場と同じ 1 月 19 日に発生が確認された国内 38 例目（千葉県 7 例目）農場が当該農場から約 400m 南に位置していた。
- ③ 当該農場は鶏舎、集卵施設、倉庫兼事務所及び更衣室で構成されていた。鶏舎は東側の 1～4 号鶏舎、西側の 5～8 号鶏舎から成り、発生鶏舎は 6 号鶏舎であった。当該農場ではひとつの建屋を棟に沿って壁で完全に二分し 2 つの鶏舎としており、発生鶏舎については、棟より北側が 6 号鶏舎、南側が 5 号鶏舎であった。
- ④ 農場から約 1.6km 東部に貯水池がある。

## 3 通報までの経緯

- ① 1 月 18 日朝 6 時台に農場長が見回った際、発生鶏舎（約 3.8 万羽、通報時約 661 日齢）の南側 2 列目の中央付近の最上段（6 段目）の隣接 2 ケージ（ケージあたりの飼養羽数は 9～10 羽）で計 6 羽がまとまって死亡しているのを確認し、家畜保健衛生所に通報したとのこと。同じケージの生存鶏には異状はみられなかったとのこと。この時点では当該ケージ以外にまとまった死亡はなかったが、通報後に他の従業員が見回った際（10 時頃）、発生鶏舎に隣接する 5 号鶏舎において、南側 1 列目の中央付近の 1 段目のケージでまとまった死亡が確認されたとのこと。
- ② 調査時、発生鶏舎では、発生ケージと隣接するケージでさらに 4 羽程度の死亡が確認された。また、5 号鶏舎の上記のケージに加え隣接する 2 ケージでも 6 羽程度のまとまった死亡が確認され、同ケージの生存鶏には沈鬱・嗜眠等の神経症状が認められた。
- ③ 農場主によると、1 月 15 日～18 日の発生鶏舎の死亡羽数の推移は、5 羽、6 羽、10 羽、6 羽。
- ④ 農場主によると、餌食いや産卵率の低下等の異状は確認されなかったとのこと。

## 4 管理人及び従業員

- ① 当該農場には、従業員が 10 名おり、それぞれの従業員には飼養管理や集卵などおおまかな担当はあるが、勤務状況によって様々な業務に従事するとのこと。ただし、ベトナム人実習生 1 名やパート職員 3 名は鶏舎での飼養管理は担当しないとのこと。
- ② 1 日あたりの担当者数は飼養管理が 2～3 名、除糞作業が 1 名、集卵作業が 2 名とのこと。その日の業務は固定であり、同じ日のうちに別の業務を行うことはないとのこと。
- ③ 周辺農場と資材等の共有は行っておらず、従業員も兼任することはないとのこと。

## 5 施設の飼養衛生管理

- ① 農場入口には立入禁止看板が設置されており、衛生管理区域の周辺にはチェーンが設置されていたが、農場周囲の林との境界には一部設置されていない箇所もあった。
- ② 農場入口は（１）集卵車用（南側）と（２）集卵車以外の外部業者・従業員用（北側）の２か所あり、いずれもゲート消毒（上、下、横方向から消毒薬噴霧）が設置されていた。
- ③ 従業員は出勤時、車で車両消毒ゲートを通過後、農場奥の従業員用更衣室前で駐車し、更衣室で農場専用の作業着及び長靴を着用すること。
- ④ 鶏舎に入る際には、事務所横の鶏舎用更衣室で鶏舎専用の作業着に着替えてから鶏舎前室で踏み込み消毒を行った後、鶏舎内で各鶏舎専用の長靴に履き替え、再度踏込消毒を行い、手指消毒をして入室すること。ドアに隙間等はみられなかった。踏込消毒槽の交換頻度は１日１回及び汚れた際とのこと。
- ⑤ 他の鶏舎へ行く際は、鶏舎用更衣室で作業着を取り換えるとのこと。
- ⑥ 外部業者には車で車両消毒ゲートを通過後、外来者用更衣室で入場記録を記入し、農場専用の作業着及び長靴を着用するよう指導しているとのこと。なお、集卵業者は更衣しないものの、集卵室前で農場専用の長靴に履き替え、手指消毒を実施すること。
- ⑦ 農場全体に石灰が散布されており、降雨に応じてその都度散布すること。
- ⑧ 発生鶏舎では、吸気は天井（棟付近）及び平側上部（北又は南に面する）の入気口から行われ、排気は妻側（鶏舎奥側）の換気扇（西に面する）から行われていた。当該換気扇は温度により自動で作動すること。また、平側の入気口には防鳥用の亀甲網（1.6 cm×2.0 cm）が設置されていた。
- ⑨ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを実施しているとのこと。オールアウトのたびに空舎期間を38～40日間程度設け、鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑩ 115～120日齢で導入、480日齢で誘導換羽を実施し、約720日齢で廃鶏出荷すること。
- ⑪ 飲用水は近隣の系列農場の井戸から引いた水を消毒して使用しているとのこと。
- ⑫ 鶏卵は集卵ベルト及びバーコンベアで集卵室に運ばれていた。鶏舎外のバーコンベアは、上部はカバーで覆われていたが、下部は外部に露出していた。バーコンベアの鶏舎外への開口部にシャッター及び蓋は設置されていなかった。
- ⑬ 鶏糞は各鶏舎週２回程度、農場全体では週に６回、除糞ベルトで鶏舎外に搬出し、鶏糞集積場所でトラックに積み込み、農場前の道路を約600m南へ進んだところにある肥料工場へ輸送しているとのこと。鶏舎内の除糞ベルト開口部は、ベルト稼働時以外は木製パネルでふさいでいるとのこと。調査時にも塞がれていた。肥料工場では車両の下部を消毒するゲートを通過する。輸送後にトラックの洗浄は実施していないとのこと。
- ⑭ 廃棄卵は鶏糞に混ぜて肥料工場へ輸送すること。
- ⑮ 死亡鶏は鶏舎見回り時に回収し、鶏舎前室の蓋付きペールに入れておき、農場内の焼却炉でその日のうちに焼却すること。

## 6 野鳥・野生動物対策

- ① ネズミ対策として、業者と契約し月１回粘着シートと殺鼠剤の設置を行っており、粘着シートで捕獲されていることがあるとのこと。
- ② 鶏糞集積場所には防鳥ネットが設置されていた。
- ③ 農場主によると、道路でネコをよく見かけるほか、農場敷地内では、農場の屋根や農場内の道路でカラス、ハト、ハクセキレイなどをたまに見かけるとのこと。調査時には農場周囲の林でヒヨドリやカラ類等の野鳥が確認された。
- ④ 隣接する北側及び南側の林でイノシシをよく見かけるとのこと。

（以上）